

川田さんのクラスでは、社会科の時間に町に出かけ、お店の人にインタビューをすることになりました。そこで、川田さんは、パン屋さんに行きたいと考え、じゅんびをしました。次のAは、インタビューの前に川田さんが作った聞きたいことのメモ、Bは、インタビューで聞いたことをまとめたものです。また、Cは、インタビューの後に川田さんがクラスで発表したことです。これらを読んで、後の問題に答えましょう。

A パン屋さんに聞きたいこと

- ・ お店にはたくさん種類のパンがならnderが、どうやって作るのか。
- ・ どんなことにくふうをしているか。

B インタビューで聞いたこと

お店を開ける八時までにパンができるように、朝は五時から仕事を始める。次の日の朝、すぐにパンが焼けるように、夕方には明日のじゅんびをしておく。

いつも焼きたてのパンを食べてもらえるよう、一日に何度もパンを焼く。朝は朝食用のパン、午後にはおやつ用のパンと、作るパンもくふうする。

ていねいにそうじをして、いつも清けつであることを心がけている。

毎日、二十種類くらいのパンを作る。作り方がなっているパンや、同じ種類のパンをまとめて作るなど、短い時間で多くの種類ができるようにくふうしている。

季節や行事に合わせた新商品も売り出している。失敗もあるが、おいしいとよろこんでくれるお客さんもいて、それが楽しみ。

C 発表したこと

みなさんは、パン屋さんが毎日どのような仕事をしているか知っていますか。

パン屋さんの朝はとても早く始まります。お店が開くのは八時からですが、午前五時には調理場に入り、パンを作り始めるそうです。

朝から焼き始めたパンは、開店までに店にならべます。午後になると、またちがうパンを焼くそうて、お店では毎日二十種類くらいのパンを作っています。作り方がなっているパンや、同じ種類のパンをまとめて作るなど、短い時間で多くの種類ができるようにくふうしているそうです。

また、季節や行事に合わせた新商品も売り出しているそうです。新しいパンは、商品にするまでに何度か失敗して作り直すこともあるけれど、よろこんでくれるお客さんも多く、それが楽しみだと話してくれました。

わたしは、あんなにたくさん種類のパンをどうやって作るのかが不思議でしたが、時間をうまく使うくふうがあるとわかりました。また、何気なく見ていた季節や行事に合わせたパンにも、いろいろな苦労やよろこびがあることを知りました。

問題1

川田さんは、Bの「インタビューで聞いたこと」を、内よつごとに三つに分けました。

①から③の□には、ウ、エ、オのどれが当てあまりますか。記号を書きましよう。

・お客さんによるこんでもらうためのくふう

イ

いつも焼きたてのパンを食べてもらえるよう、一日に何度もパンを焼く。
朝は朝食用のパン、午後にはおやつ用のパンと、作るパンもくふうする。

①

・決まった時間の中で、何種類ものパンを焼くくふう

ア

お店を開ける八時までにパンができるように、朝は五時から仕事を始める。
次の日の朝、すぐにパンが焼けるように、夕方には明日のじゅんぴをしておく。

②

・気をつけていること

③

問題2

川田さんは、インタビューで聞いたことのうち、Cの「発表したこと」ではどのようなことを中心に発表を行いましたか。ア、ウから選んで、記号を書きましよう。

ア 何種類ものパンを焼くために時間をうまく使っていることや、季節や行事に合わせたパンにも、

いろいろな苦労やよろこびがあること。

イ お客さんによるこんでもらうために、午前と午後ではちがうパンを作ったり、いつも焼きたてのパンをならべていること。

ウ お客さんに安心してもらうために、いつも店のそうじをして、清けつであることを心がけていること。

問題3

川田さんは、Aの「パン屋さんに聞きたいこと」に「お店にはたくさん種類のパンがならんでるが、どうやって作るのか」と書きました。これについて、パン屋さんでは、どのようなくふうをしていますか。Cの「発表したこと」から、□にあてはまる言葉

をぬき出して書きましよう。

短い時間で多くの種類ができるようにくふうしている。

解答と解説

問題1

川田さんは、Bの「インタビューで聞いたこと」を、内よう()に分けました。
①から③の□には「ウ、エ、オ」のどれかを入れてください。記号を書きましよう。

・お客さんによる「こんで」するためのくふう

イ いつも焼きたてのパンを食べてもらえるよう、()の何種類かを焼く。

朝は朝食用のパン、午後にはおやつ用のパンと、()をふつする。

① オ

・決まった時間の中で、何種類ものパンを焼くくふう

ア お店を開ける八時までにパンがでるように、朝は五時から仕事を始める。

次の日の朝、すでにパンが焼けるように、夕方には明日のじゅうぶにしておく。

② エ

・気をつけていること

③ ウ

問題2

川田さんは、インタビューで聞いたことのうち、Cの「発表したこと」ではどのようなことを中心に発表を行いましたか。ア～ウから選んで、記号を書きましよう。

・何種類ものパンを焼くために時間をうまく使っていることや、季節や行事に合わせたパンにもいろいろな苦勞(くろう)やよるこびがあること

イ お客さんによる「こんで」するための、午前と午後ではちがうパンを作ったり、いつも焼きたてのパンをならべていること

ウ お客さんに安心してもらうために、いつも店のそうじをして、清けつてあることを心がけていること

ア

問題3

川田さんは、Aの「パン屋さんに聞きたいこと」に、「お店にはたくさん種類のパンがならんでるが、どうやって作るのか」と書きまし。これについて、パン屋さんはどのようなことを中心に書かれていたか。Cの「発表したこと」から、□にあてはまる言葉をぬき出して書きましよう。

作り方がにているパンや、同じ種類のパンをまとめて作るなど、

短い時間で多くの種類ができるようにくふうしている。

問題1

Bの「インタビューで聞いたこと」を三つのグループに分ける問題です。まずは、どのように分けるのかを理かいしてから、ウ、エ、オのうち、どれがあてはまるのかを考えましよう。

三つのグループとは、「お客さんによるこんでもらうためのくふう」、「決まった時間の中で、何種類ものパンを焼くくふう」、「気をつけていること」です。

ウは「ていねいにそうじをすることを心がけている」とあるので、「気をつけていること」にあてはまるので、答えは③です。

エは「短い時間で多くの種類ができるようにくふうしている」とあるので、「決まった時間の中で、何種類ものパンを焼くくふう」にあてはまります。答えは②です。

オは「おいしいとよるこんでくれるお客さんもいて、それが楽しみ」とあり、「お客さんによるこんでもらうためのくふう」になるので、答えは①です。

問題2

川田さんは、Aの「パン屋さんに聞きたいこと」で、「お店にはたくさん種類のパンがならんでるが、どうやって作るのか。」「どんなことにくふうをしているか。」「の二つを挙げています。

これをもとに、Cの「発表したこと」を読みましよう。パン屋さんの一日の仕事を説明する中には、短い時間で多くの種類のパンを作るくふうについて書かれています。また、季節や行事に合わせた新商品を売り出していることも書かれています。

さらに発表の終わりの部分は、「時間をうまく使うくふうがあるとわかりまし。」「季節や行事に合わせたパンにも、いろいろな苦勞やよるこびがあることを知りました。」と、まとめています。

つまり、Cの「発表したこと」は、パン屋さんは何種類ものパンを焼くために時間をうまく使うくふうをしていること、また、お客さんによるこんでもらえるのがうれしいので、苦勞もあるけれど新商品を作っていることが中心に書かれていたといえます。これらのことから、アが答えです。

問題3

「お店にはたくさん種類のパンがならんでるが、どうやって作るのか」の答えになる部分を、Cの「発表したこと」からさがしましよう。

「発表したこと」を読むと、「作り方がにているパンや、同じ種類のパンをまとめて作るなど、短い時間で多くの種類ができるようにくふうしているそうです。」が、その部分ですが、答え方に注意が必要で、

「作り方がにているパンや、同じ種類のパンをまとめて作るなど、」が答えになります。

ぬき出して書くときは、元の文の漢字や「。」「や」「など」にも気をつけて、そのまま書きましよう。

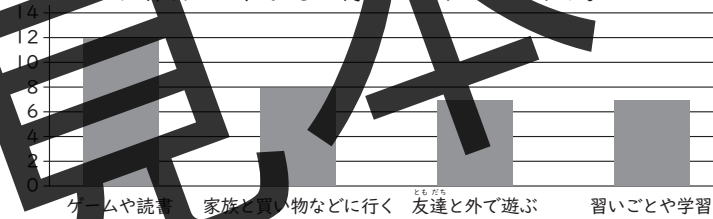
石田さんたちは、休日の過ごし方について、クラスでAのようなアンケートをとりました。Bのグラフは、アンケートの1～3のしつ問の結果をまとめたものです。また、Cは、アンケートの結果をもとに、休日の過ごし方について、石田さんが発表したことです。これらをもとにして、後の問題に答えましょう。

A 休日の過ごし方についてのアンケート

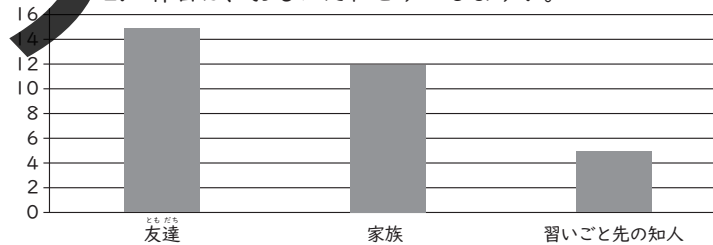
- 1 休日には、おもに何をしていますか。
- 2 休日は、おもにだれとすごしますか。
- 3 休日に、よく行くところはどこですか
- 4 休日に、よく屋外に行く人に聞きます。
 - ①それは、なぜですか。
 - ②そこには、だれと行きますか。
- 5 休日を、おもに室内で過ごす人に聞きます。
 - ①それは、なぜですか。
 - ②そこでは、だれとすごしますか。

B アンケートの結果

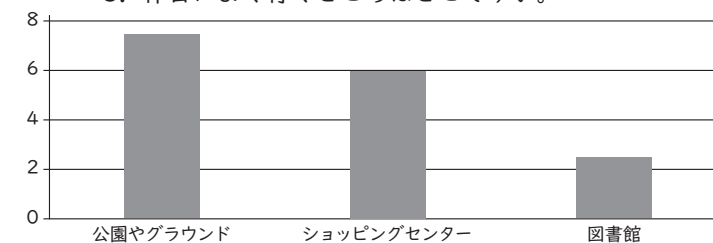
1. 休日には、おもに何をしていますか。



2. 休日は、おもにだれとすごしますか。



3. 休日によく行くところはどこですか。



C 石田さんが発表したこと

わたしたちは、クラスみんなの休日の過ごし方についてアンケートをとって調べました。なぜ、休日の過ごし方を調べたかというと、クラスの友達と外で遊ぶことが少ないと感じたからです。

そこで、調べた結果を「休日に何をしているか」「休日によく友達と会うか」「休日に外で遊ぶことがあるか」という点からまとめたことを発表します。

アンケートの結果、休日に行っていることは、多い順に「ゲームや読書をする」「家族と買い物などに行く」「友達と外で遊ぶ」「習いごとや勉強」でした。

また、休日に友達と会う人は、全体の半分以下でした。そして、休日に外で遊ぶ人は全体の半分以下です。

このことから、休日に友達と会う人は全体の半分以下で、その場所は友達の家や図書館など、室内で過ごす人が多いことがわかりました。

友達と外で遊ぶことが少ない理由は、近くによい場所が少ないからで、外で遊ぶときは家の人と少し遠くまで行くことが多いようです。

しかし、休日を友達と室内で過ごす人の中には、外で遊びたいと思っています人もいました。たしかに、近くに広い公園やグラウンドはありませんが、児童館の公園を使うことができるようです。また、昨年には〇〇川がせいびされて、川岸が遊歩道になったそうです。このような学校の近くで外で遊べる場所も利用して、休日に友達と外で遊ぶ機会を作ってみてはどうでしょうか。

問題1

石田さんたちが、休日の過ごし方のアンケートをとろうと考えたのはなぜですか。ア～エから選んで、記号を書きましょう。

- ア 運動がきらいな人が多いと感じたから。
イ 勉強にこそが、友達と会う時間が少ないと感じたから。
ウ 友達と外で遊ぶことが少ないと感じたから。
エ 外で遊ぶ場所が少ないと思う人が多かったから。

問題2

石田さんたちは、アンケートの結果を発表するとき、どのようなことに気をつけたと考えられますか。ア～エからあてはまるものを二つ選んで、記号を書きましょう。

- ア 伝えたいと思うことを、種類ごとに分けて説明しようとしている。
イ アンケートの前に予想したことを、結果とともに説明している。
ウ アンケートの結果からわかったことをもとに、自分の意見ものをべている。
エ 自分の意見を伝わりやすくするために、図を使って説明している。

問題3

次の会話文は、石田さんの発表を聞いた後に、小西さんと石田さんが話し合った様子です。これを読んで、①と②の問題に答えましょう。

小西…アンケートをとると、いろんなことがわかりますね。わたしも休日は習いごとをしてい
るから、なかなか友達と遊べません。しかし、①友達と外で遊ばない理由はほかにもあっ
たんですね。

石田…そうですね。だから室内で遊ぶ人が多いとわかりました。だけど外で遊びたいと思う人
もいることもわかりました。

小西…なるほど。そこで、自分たちで②について調べてみたんですね。どうやって調
べたのですか。

石田…市役所に、市内のしせつを案内するパンフレットがあったので、それで調べました。

- ①「友達と外で遊ばない理由」とは、どんなことですか。石田さんの発表に書かれたこ
とを、まず目にあてはまるように書きましよう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

から。

- ②には、どんな言葉が入ると考えられますか。石田さんの発表を読み、その文
章中の言葉を使って答えましよう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

解答と解説

問題1 石田さんたちが、休日の過ごし方のアンケートをとろうと考えたのはなぜですか。アから選んで、記号を書きましょう。

ア 運動が好きな人が多いと感じたから。
イ 勉強にいきなり、友達と会う時間が少ないと感じたから。
ウ 友達と外で遊ぶことが少ないと感じたから。
エ 外で遊ぶ場所が少ないと思う人が多かったから。

問題2 石田さんたちは、アンケートの結果を発表するときのようないきなり意見を述べた。アから選んで、記号を書きましょう。

ア 伝えたいと思うことを、種類ごとに分けて説明しようとしている。
イ アンケートの前に予想したことを、結果とともに説明している。
ウ アンケートの結果からわかったことをもとに、自分の意見の述べた。
エ 自分の意見を伝わりやすくするために、図を使って説明している。

問題3 次の会話文は、石田さんの発表を聞いた後に、小西さんと石田さんが話し合った手です。これを読んで、①と②の問題に答えましょう。

小西：アンケートをとると、いろんなことがわかりますね。わたしも休日は家で勉強したいですね。
石田：そうですね。だから室内で遊ぶ人が多いとわかりました。だから外で遊ぶ人は少ないとわかりました。
小西：なるほど。そこで、自分たちで②について調べてみたんですね。どうやって調べたのですか。
石田：市役所に、市内のしせつを案内するパンフレットがあったので、それで調べました。

① 「友達と外で遊ぶ理由」とは、どんなことですか。石田さんの発表に書かれたことを、まず目にあてはまるように書きましょう。

近くによい場所が少ないから。

学校の近くで外で遊べるところ

② 「は、どんな言葉が入ると考えられますか。C 石田さんの発表を読み、その文章中の言葉を使って答えましょう。

問題1

発表を聞いたり読んだりするときには、何についての発表か、なぜそれを調べたのか、どのようなことを調べたのか、などに気をつけて、聞いたり読んだりするようにしましょう。

石田さんたちが、休日の過ごし方について、クラスでアンケートをとろうと考えた理由は、Cの「発表したこと」に、「なぜ、休日の過ごし方を調べたか」と、クラスの友達と外で遊ぶことが少ないと感じたからです。」と書かれています。このことから、答えはウです。

問題2

石田さんの発表を読むと、三行目に「調べた結果を『休日に何をしているか』『休日によく友達と会うか』『休日に外で遊ぶことがあるか』という点からまとめたことを発表します。」とあります。ここから、調べたこ

とを三つに分けて説明しようとしていることがわかります。

また、最後のだん落では「このような学校の近くで外で遊べる場所も利用して、休日に友達と外で遊ぶ機会を作ってみてはどうでしょうか。」とあり、アンケートの結果を説明するだけでなく、自分の意見も述べていることがわかります。

このことから、答えはアとウです。

問題3

① 石田さんたちがクラスでアンケートをとった理由が、休日に友達と遊ぶことが少なくなっていると感じたからでした。

では、なぜ外で遊ぶことが少ないのでしょうか。アンケートには、それをたずねるしつ問はありません。しかし、石田さんの発表を読むと、「友達と外で遊ぶことが少ない理由は、近くによい場所が少ないから」とあり、これが答えです。

② 「は、前後の、石田さんと小西さんの会話を振り返ってみましょう。石田さんが「室内で遊ぶ人が多いとわかりました。だけど外で遊びたいと思う人もいます」ともわかりました。」と発言したことに対して、小西さんは「なるほど。そこで、自分たちで②について調べてみたんですね。」と発言しています。

つまり、外で遊びたいと思う人もいますとわかったから、石田さんは何を調べたのだと考えられます。そこで、石田さんの「発表したこと」を読むと、「たしかに、近くに広い公園やグラウンドはありませんが、児童館の公園を使うことができます。また、昨年には〇〇川がせいで、川岸が遊歩道になったそうです。このような学校の近くで外で遊べる場所も利用して、休日に友達と外で遊ぶ機会を作ってみてはどうでしょうか。」と書かれています。この、「児童館の公園」や「川岸の遊歩道」は、石田さんの「発表したこと」の中に「学校の近くで外で遊べる場所」とあるので、これが答えです。

石田さんは、室内で遊ぶ人の中に、外で遊びたいと思う人もいたの、それについて調べてみたのです。

次の文章は、学校で図書委員をしている大野さんが書いたものです。これを読んで後の問題に答えましょう。なお、①から⑥の数字はだん落の番号です。

① わたしは図書委員をしていて、もっと多くの人に図書室を利用してもらいたいと思いました。

② なぜなら、かし出し記録を見ると、本を借りているのはほとんど決まった人で、その数は全体の三分の一くらい、また、学校で取ったアンケート結果によると、図書室で事典や図かんを使って調べごとをする人も全体の半分くらいで、どちらも多いとは言えないからです。

③ もちろん、本は市の図書館で借りることも、書店で買うこともできます。(A)しかし、学校の図書室にはよい点もあります。

④ 一つは、教科書などですいせんされた本が学年別にわかりやすくならべてあるので、本をさがしやすいことです。(B) もう一つは、理科や社会科のじゅ業で習うことに関係した本がそろっているので、目的に合った調べものができることです。

⑤ 広い市の図書館に行くと、どの本を読めばよいのかまようことがありますが、学校の図書館だと、短い休み時間でも本を見つげることができます。(C)

⑥ このように ア。
だから、できるだけ多くの人に利用してもらいたいと思います。

問題1

大野さんは第①だん落に「もっと多くの人に図書室を利用してもらいたい」と、自分の考えを書いていきます。大野さんがこのように考えた理由が書かれているのは、どのだん落ですか。□に数字を書きましよう。

第

だん落

問題2

——「学校の図書室のよい点」として、大野さんはどのようなことを書いていますか。次の中から選んで記号で答えましよう。

- ア 学校の図書室には、目的の本をさがしてくれる先生がいること。
- イ 学校の図書室は、じゅ業中でも調べごとができる便利さがあること。
- ウ 学校の図書室は、その学校に通う人にとって使いやすくなっていること。
- エ 学校の図書室には、市の図書館や書店にはない本がおいてあること。

問題3

この文章に、次の文を入れるとしたら、どこに入れるとよいでしょうか。本文の(A)～(C)から選んで、記号を書きましよう。

また、調べごとは家のパソコンなどでインターネットを使って調べることできます。

問題4

ア □には、どのような文を書くといいでしょうか。第④だん落と第⑤だん落に書かれたことから考えて、「学校の図書室」「市の図書館」という言葉を使って書きましよう。

解答と解説

問題1 大野さんは第①だん落に「もっと多くの図書館を利用してもらいたい」と、自分の考えを書いています。大野さんがこのように考えた理由が書かれているのは、どのだん落ですか。□に数字を書きましょう。

第2だん落

問題2 「学校の図書室のよい点」として、大野さんが挙げたよい点をすべて書き出します。次の中から選んで記号で答えましょう。

- ア 学校の図書室には、目的の本さがしてくれる先生がいること。
イ 学校の図書室は、じゅ業中でも調べることができる便利さがあつて、
ウ 学校の図書室は、その学校に通う人にとって使いやすくなつてゐること。
エ 学校の図書室には、市の図書館や書店にはない本がおいであること。

問題3 この文章に、次の文を入れるとしたら、どこに入れるとよいでしょうか。本文の（ア）～（ウ）から選んで、記号を書きましょう。

また、調べぐとは家のパソコンなどでインターネットを使って調べぐこともできます。

ア

ウ

問題4 アには、どのような文を書くことがよいでしょうか。第①だん落と第②だん落に書かれたことから考えて、「学校の図書室」「市の図書館」という言葉を使って書きましょう。

例学校の図書室には市の図書館よりも便利な点があります。

問題3

すると、その後の第④だん落に「一つは、教科書などですいませんされた本が学年別にわかりやすくなるべであるので、本をさがしやすいことです。」と、具体的に例を挙げて、図書室のよい点が書かれています。その後には、さらに「もう一つは、理科や社会科のじゅ業で習うことに関係した本がそろつてゐるので、目的に合った調べものができるところです。」とあり、この二つの例は、どちらも学校に通う児童にとって、図書室が便利で使いやすい場所であることが書かれています。このことから、答えはウです。

問題1

文章全体の流れをとらえ、どのだん落にどんな内容が書かれているか、理かいしましょう。

第①だん落には「もっと多くの人に図書室を利用してもらいたい」と大野さんの考え（意見）が書かれています。それに対する理由は第②だん落の「なぜなら」の後に書かれています。

このように、自分の考えや意見の理由を書くときは、「なぜなら」や「どうしてか」というと「な」などに続けて書くと、読む人に伝わりやすくなります。

大野さんが、多くの人に図書室を利用してもらいたい理由は、図書室を利用する人が多いとは言えないからです。答えは第②だん落です。

問題2

「学校の図書室のよい点」は第③だん落にあります。それについてくわしく説明している部分をさがしましょう。

問題4

第④だん落には、図書室のよさの例が書かれています。

第④だん落にも、「市の図書館に行くと、どの本を読めばよいのかまよふことがあるが、学校の図書館だと、短い休み時間でも本を見つげることができ」と、学校の図書室のよい点が書かれています。

アには、これらをまとめる文が入ります。

問題文には、「学校の図書室」「市の図書館」という言葉を使うとあるので、「学校の図書室には市の図書館よりも便利な点がある」ということが書けていれば正かいです。

◆他の正かいい例
・市の図書館とくらべても、学校の図書館にはよい点があります。

・学校の図書館には、市の図書館にくらべ、使いやすい点があります。

など。

次の文章を読んで問題に答えましょう。なお、①から⑤の数字は、だん落の番号を表しています。

① 手のひらを上にして、体の前にさし出してみてください。このとき、手のひらには空気が乗っているはず。しかし、その重さを感じることはありません。では、空気には重さがないのでしょうか。

② じつは空気にも重さがあり、一リットルで約一・二グラムになります。そんなに軽いなら、重さを感じなくても当然だと思いませんか。

③ 地球の表面から上空にかけては、およそ五〇〇キロメートルの高さまで空気のそうがあります。つまり、手のひらの上には、高さ五〇〇キロメートル分の空気が乗っていることになり、その重さは約一〇〇キログラムにもなります。それなのに、^①空気の重さを感じなかったり、重みでつぶされたりしないのは、なぜでしょう。

④ わたしたちは生まれたときから、まわりを空気につつまれています。もしも空気の重さがそのまま体にかかってしまうとしたら、地球上の生物の多くは生まれることさえできないでしょう。そうならないのは、ずっとそのかんきようでくらし、空気の重さは「ないもの」としているからです。

⑤ ^②同じことを海の魚で考えるとわかりやすいでしょう。水の中には水圧^{すいあつ}という力がかかっています。水圧^{すいあつ}による力は深くなればなるほど強くなり、深海とよばれる水深二〇〇メートルの深さになると、一平方センチメートルあたり二〇キログラムの重さがかかってきます。このようなどころでは、人間や陸上^{りくじょう}の生物は生きていくことができません。しかし、深海にぐらす魚は平気です。なぜなら、生まれたときからそのかんきようで生きているため、それがふつうのことだからなのです。

これは見本です

問題1

この文章は何について書かれているでしょう。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号を書きましよう。

- ア わたしたちが空気の重さを感じないのはなぜか。
イ 海の魚が水の重さを感じないのはなぜか。
ウ 空気に重さがないのはどうしてか。
エ 空気はどのくらいの高さまであるのか。

問題2

——線部①「空気の重さを感じなかったり、重みでつぶされたりしないのは、なぜでしょう。」とありますが、これについての理由が書かれているのは①～⑤のだん落のうちのどれですか。番号で答えましよう。

問題3

——線部②「同じこと」とは、どんなことと、どんなことが同じなのでしょう。□にあてはまるように書きましよう。

わたしたちが生まれたときから、まわりを空気につつまれたかんきょうでくらしていて、空気の重さを「ないもの」としてくらしていることと、深い海にすむ魚が

問題4

次の会話文は、山川さんと町田さんが本文を読んだ感想を話し合ったものです。これを読んで、□にあてはまる文を選び記号を書きましよう。

山川…この文章を読んで、空気にも重さがあることを初めて知りました。

町田…わたしもです。ふだん、まったく重さを感じることがないからです。しかし、海の中の魚とくらべることで、なぜ重さを感じないのかわかりました。

山川…そうですね。それにしても、□

町田…わたしたちの体は、とてもじょうぶにできているのかもしれないね。

- ア 空気は軽いけれど、水は重いので、魚がなぜ水の重さに気づかないのか、とても不思議です。
イ いつも、手のひらの上に一〇〇キログラムもの重さがかかっているなんて、信じられません。
ウ もしも空気に重さがあると、ふつうに歩くのもたいへんになってしまいそうです。
エ 空気のそうが高さ五〇〇キロメートルまであることも、知ることができました。

解答と解説

問題1 この文章は何について書かれているか。もっともふさわしいものを「ア」から選んで、記号を書きましよう。

ア わたしたちが空気の重さを感じないのはなぜか。
イ 海の魚が水の重さを感じないのはなぜか。
ウ 空気に重さがないのはどうしてか。
エ 空気がどのくらいの高さまであるのか。

問題2 線部①「空気の重さを感じなかったり、重みでつぶされたりしないのは、なぜでしょう。」とありますが、これについての理由が書かれているのは「イ」の段落のうちどれか。番号で答えましよう。

問題3 線部②「同じこと」とは、どんなことと、どんなことが同じなのでしょう。次のわたしたちが生まれたときから、まわりを空気につつまれたかんきょうをくらし、空気の重さを「ないもの」としてくらしていることと、深い海にすむ魚が「同じこと」としてくらしていることと、同じことと、どんなことが同じなのでしょう。次の

例 生まれたときから水の中で生きているため、それをふつうの生活として(ないものとして)生きていること。

問題4 次の会話文は、山川さんと町田さんが本文を読んだ感想を話し合ったものです。これを読んで、()にあてはまる文を選び記号を書きましよう。

山川「この文章を読んで、空気にも重さがあることを初めて知りました。
町田「わたしもです。ふだん、まったく重さを感じることがないからです。しかし、海の魚の重さを感じないのはなぜか。魚とくらべて、なぜ重さを感じないのかわかりました。
山川「そうですね。それについて、()」
町田「わたしたちの体は、とてもじょうぶにできているのかもしれないね。
ア 空気は軽いけれど、水は重いので、魚がなぜ水の重さを感じないのか、とても不思議です。
イ いつも、手のひらの上に一〇〇グラムもの重さがかかっているなんて、信じられませんが、ウも空気にも重さがあると、ふつうに歩くのもたいへんになってしまいうす。
エ 空気の重さが高さ五〇〇キロメートルまであることも、知ることができました。

問題1

この文章が何について書かれているかを問われているので、文章のテーマを読み取りましよう。

文章の第①だん落の終わりに「空気には重さがないのでしうか。」とあります。これは、これから書くことについて、読む人に関心をもってもらえるように質問をしているのです。

続く第②だん落には、「じつは空気にも重さがあり、一リットルで約二グラムになります。」と、その答えが書かれ、さらに「そんなに軽いなら、重さを感じなくても当然だと思いましたが。」と、今度は、空気の重さを感じないことについて、読者に問いかけています。

このように、この文章は、ずっと「空気に重さがあること」と、「わたしたちがそれを感じないのはなぜか」について書かれています。海魚が水の重さを感じないのはなぜか、「わたしたちが空気の重さを感じないのはなぜか」を、わかりやすく説明するため書かれているもので、この文章全体のテーマではありません。答えは「ア」です。

問題2

「空気の重さを感じなかったり、重みでつぶされたりしないのは、なぜでしょう。」と聞かれています。その理由を本文中からさがましよう。

読む人に質問する形で書かれているので、答えはその後文章からさがします。すると、すぐ後の第④だん落に、「わたしたちは生まれたときから、まわりを空気につつまれて」いること、さらに「ずっとそのかんきょうでくらして、空気の重さは『ないもの』としているから」と書かれていて、この部分が理由になります。文の終わりが「から。」になっていることにも気をつけましよう。「から」は理由を表す言い方です。答えは「4」です。

問題3

「同じこと」の後に、「海の魚で考えるとわかりやすいでしう。」とあるので、「わたしたちが生まれたときから、まわりを空気につつまれたかんきょうでくらして、空気の重さを『ないもの』としてくらしていること」と、海の魚とに、「同じこと」があるかわかりましよう。そこで、海の魚はどうなのか、本文からさがましよう。すると、水の中には水圧がかかっているが、深い海にすむ魚は、「生まれたときからそのかんきょうで生きてるため、それがふつうのこと」だと書かれています。この部分が、わたしたちが空気の重さを感じないで生きてるのと「同じこと」です。

問題4

山川さんが言ったことを考える問題です。会話文をよく読んで、二人の会話の流れを読み取りましよう。()の後で、町田さんは「わたしたちの体は、とてもじょうぶにできているのかもしれないね。」と発言しています。

このことから、山川さんは「わたしたちの体がじょうぶにできている」につながることと言ったと考えることができます。ア「エを見ると、わたしたちの体がじょうぶにできている」に關係のありそうなものはイとウですが、ウをあてはめても、話しがつながりません。答えは「イ」で、重さを感じないけれど、手のひらに百キログラムもの空気の重さがかかっていることに平気なわたしたちの体は、じょうぶにできているのかもしれない、と話していることがわかります。

次の文章を読んで後の問題に答えましょう。

（王さまはけらいを連れて、さばくにイチゴをさがしに行きました。）

一行は、さらに二日二ばん、昼は五十度、夜はマイナス二十度と早がわりする世界をすすみました。

三日めの夕あらしのとき、王さまがテントの中でうとうとねむっているあいだに、けらいたちはそうだんしました。

隊長たいさうがいいました。

「王さまがあんなにお元気なのは、われわれがおまもりしているからだ。ここで、ちょっとすがたをかくして、王さまをひとりぼっちにしようではないか。王さまは心ぼそくて、早くおしろにかえりたいと思われるにきまつている。そこへ、われわれが王さまをさがしながら、かけつける。そして、早くかえりましょう」ともうしあげれば、きつと、^①子どものようにうなずかれるであろう。」

「それは、よい考えです。」

と、部下たちは、いいました。

「王さまは、子どもと同じです。いちど、こわいめにあわせれば、氷のイチゴ畑よりおしろのほうがいいことが、すぐおわかりになりますよ。」

「では、夕あらしがおさまって、出発したら、雪がふっているあいだに、王さまを（^②）にしよう。」

そんな作戦さくせんがあるとはつゆしらず、王さまはねむりからさめると、

「さあ、イチゴ畑はちかいぞ。出発、出発！」

と、みずから、けらいたちをおこしてまわられました。

こな雪の中をすすむうちに、いつのまにか、王さまのラクダは先頭になりました。そして、気がついたときには、じぶんのうしろからついてくるけらいは、ひとりもいなかったのです。

（福永令三「クレヨン王国いちご村」）

問題1

王さまたちがイチゴさがしをしているさばくは、どのようなところか、次のようにまとめました。本文に書かれていることを、にあてはまるように書きましよう。

©小学館

と早がわりするところ。

・タあらしがあるところ。

・がふるところ。

問題2

——①「子どものようにいつまでもかえる」とありますが、これはどのような様子でしょうか。ア～エから選んで、記号を書きましよう。

ア わがままを言って、回りの人のいうことを聞かない様子。

イ 回りの人のいうことに、おとなしくしたがう様子。

ウ 自分の考えをみとめてもらってうれしがる様子。

エ どうしたらよいのかわからず、とまどう様子。

問題3

() ② ()にあてはまる六文字の言葉を、本文からさがして書きましよう。

問題4

次の会話文は、石田さんと川本さんが本文を読んだ感想を話し合ったものです。これを読んで、あとの問題に答えましよう。

川本…イチゴをさがしに出かけた王さまとけらいたちの様子が書かれていました。

石田…けらいたちは、さばくでイチゴをさがすのがいやだったのですね。

川本…そうですね。さばくの気候はきびしいし、早くやめたいと思っているようです。だけど、

王さまには、いやだと言えないのでしょうか。

石田…そこで、王さまをこわいめにあわせて、おしろにかえりたいと思わせようとしているのですね。

けらいたちが考えた、——線部「王さまをこわいめにあわせて」とは、実際ににはどのようにすることですか。次の言葉に続けて、まず目にあてはまるように書きましよう。

王さまのラクダの

こと。

解答と解説

問題1 王さまがイチゴさがしをしているのは、何とのおうなところか、次のようにまづ
めました。本文に書かれているところを、□にあてはまるように書きましよう。

昼は五十度、夜はマイナス二十度

と早がわりするところ。

・タあらしがあつたところ。

雪

がふるところ。

問題2 ①「子どものようにふるふれる」とありますが、これはどのような様子でし
か。ア～エから選んで、記号を書きましよう。

ア わがままを言って、回りの人のいうことを聞かない様子。

イ 回りの人のいうことに、おとなしくしたがう様子。

ウ 自分の考えをきかぬで、おとなしくがう様子。

エ どうしたらよいかわからず、とまどう様子。

問題3 ① ② (二)あてはまる六文字の言葉を、本文からさがして書きましよう。

ひとりぼっち

問題4 次の会話文は、石田さんと川本さんが本文を読んだ感想を話し合ったもので、これ
を読んで、あとの問題に答えましよう。

川本：イチゴさがしに出かけた王さまとけらいたちの様子を書かれていました。

石田：けらいたちは、さばくの気候はきびしい、早くやめたいと思つていようです。だから、

川本：そうすね。さばくの気候はきびしい、早くやめたいと思つていようです。だから、

王さまには、いやだと言えないのでしよ。

石田：そこで、王さまをわいめにあわせて、おしろにかえりたいと思つていようです。さ

けらいたちが考えた、――線部「王さまをこわいめにあわせて」とは、実さいにはどのような

すところですか。次の言葉に続けて、まづ目(め)にあてはまるように書きましよう。

うしろについていけない

問題1

物語の場面を読み取りましよう。この問題では、さ
ばくがどのようなところかを聞かれています。

あらかじめ、「タあらしがある」と示されているので、
これをヒントにして、残りの二つをさがしましよう。

本文の一行目に「昼は五十度、夜はマイナス二十度
と早がわりする世界をすすみまし」とあります。こ
の「世界」とは、王さまとけらいがイチゴをさがして
るところで、さばくのことです。

もう一つは、本文の後半に書かれています。隊長と
けらいの会話に「タあらしがおさまって、出発したら、
雪がふっているあいだに」とあり、さらに「こな雪の中
をすすむうちに」とあるので、「雪がふるところ」が答
えです。「雪」は「こな雪」でもかまいません。」

問題2

王さまの様子を考える問題ですが、実さいの様子で
はなく、けらいたちが会話をしながら想ぞうした王さ
まの様子と気持ちを考えます。――線部の前に「王さ

まをひとりぼっちにしようではないか。王さまは心ば
そくて、早くおしろにかえりたいと思われるにきまっ
ている」とあります。けらいたちは、王さまをさばく
でひとりぼっちにすれば、心配になつて、おびえるだ
ろうと考えたのです。そして、そんなときを見計らつ
て、「われわれが王さまをさがしながら、かけつける。
そして、早くかえりましよう、ともうしあげ」と
王さまはおとなしく言うことを聞くだろう、と考えた
のです。したがって、答えは「イ」です。「エ」からも、
王さまのこまった様子が読み取れますが、「うなずか
れる」にならないので、正しい答えになりません。

問題3

「王さまを(②)にしよう」とあるので、王さまを
どのようにするのか、あてはまる言葉を本文からさが
します。

(②)の文の一つ前のセリフに、「王さまは、子ど
もと同じです。いちど、こわいめにあわせれば、氷の
イチゴ畑よりおしろのほうがいいことが、すぐわか
りになりますよ」とあるので、王さまをこわいめにあ
わそうとしていることがわかります。まづ目の字数は
六字なので、王さまを「こわいめ」にあわせるような六
字の言葉をさがしましよう。

すると、「王さまをひとりぼっちにしようではない
か王さまは心ばそくて、早くおしろにかえりたいと
思われるにきまっている」とあり、「ひとりぼっち」が
あてはまるとわかります。

問題4

本文の感想を話し合った文章から考える問題です。
二人とも、けらいたちがイチゴさがしを早くやめたい
と思つていふことを読み取つています。

この問題は、けらいたちが王さまをこわいめにあわせ
るために、実さいにどのようなことをか答えるものです。
問題3と少しは違つていますが、問題4は「王さまのラク
ダの」で始まる文を考えます。そこで本文からラクダ
が出てくる部分をさがしましよう。「王さまのラクダ
は先頭になりました。そして、気がついたときには、
じぶんのうしろからついてくるけらいは、ひとりもい
なかったのです」とあるので、ここから考えます。

「王さまのラクダの」の後(の)がながるようになると、
「うしろについていけない」が答えになります。